

学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラムによる 若手のための将来イメージ創造講座

「一筑波研究学園都市の研究所に触れる一」

Helping Reconstruction of Young Members' Images for Future
- Encounter with Top Research Institutes of Tsukuba Science City -

磯部大吾郎¹⁾

Daigoro Isobe

1) 博(工) 筑波大学 教授 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1, E-mail: isobe@kz.tsukuba.ac.jp)

This special program tries to help young members to reconstruct their images for future by providing introductory lectures by the members from some of the top research institutes in Japan. Six lecturers from six institutes will provide fruitful information on how they are brought up in the present institute and why, as well as their current interests. Young members such as graduate and undergraduate students, and those who still think he/she is young, are all welcome to participate.

Key Words : Image for Future, Motivation, Engineer, Researcher

1. はじめに

人が進路の岐路に立ち、どう進むか迷った時、他人のちょっとした助言が助けになることがある。この講座は、筆者が提案させていただいた学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラムの一環として企画したもので、今回で3回目となる。昨年までの2回は、学会で活躍される諸先輩方に経験談をざっくばらんにお聞きし、若手の研究者、学生たちが進路を考える際のヒントにしてもらおう、という企画であった。今年の講演会では、筑波研究学園都市での開催に絡み、周辺の日本最高峰の研究所の方々にお越しいただき、研究所の概要および研究内容、さらには人生を語っていただく。ぜひ、進路選択の参考にしていただきたいと思います。

2. 学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラム

最近、特に博士後期課程に在籍する日本人学生数が減少しており、全国の大学で問題になってきている。分野によっては、学生数の減少がその後の当該分野の死活問題となり得る。これは、広く見れば技術立国日本の将来を危うくする忌々しき問題であるが、個々の大学で博士後期課程学生数の減少を食い止めることには限界がある。学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラムとは、学会が主導して博士号取得を目指す学生を増進させ、バックアップするプログラム[1]であり、その対象者は、博士後期課程に在籍する学生、および博士後期課程に進むべきかどうか悩んでいる博士前期課程（修士課程）の学生である。具体的には、学生サマーキャンプや本企画のような講座の開催により、学生や若手研究者の活動と連携を活性化しようというものである。企業会員が多い日

本計算工学会の特長を生かし、積極的に企業の方々にも参加していただき、学生との交流を深めてもらえると、効果は倍増するものと考えられる。このような学会活動を通じて、博士号取得を目指す学生の数が増えることを期待している。

3. 本講座の内容

本講座は、前節に記した増進プログラムの一環として、講演会会期の2日目および3日目の昼休みに開催される。弁当が無料で配布される予定なので、気軽に参加されたい。企画主旨の説明の後、下記の方々に講演していただく。講演後には質疑の時間も設ける予定である。

会期2日目：臼井基文（宇宙航空研究開発機構）、澤田有弘（産業技術総合研究所）、山下拓三（防災科学技術研究所）

会期3日目：江島晋（日本自動車研究所）、鈴木淳一（国土技術政策総合研究所）、長田俊郎（物質・材料研究機構）

司会進行役：車谷 麻緒氏（茨城大）

4. おわりに

本講座が、進路に悩む学生や若手研究者の一助になれば幸いである。なお、本年9月には、第3回サマーキャンプも企画されている（学会ウェブページ・メーリングリストなどで広報、5月中旬に公募開始予定）ので、ぜひそちらへの参加も検討されたい。

参考文献

[1] 磯部大吾郎：（巻頭言）若手にとって魅力的な学会とは、計算工学, Vol. 17, No. 4, p.1, 2012.